



# 考え、議論する道徳とP4C

P4Cワークショップ 奈良教育大学 2019/12/14

# 目次

- ▶ S. 3 Philosophy for Children (P4C) の現状
- ▶ S. 4 今なぜP4C? それではP4Cって何? どうやるの?
- ▶ S. 5 教育改革の流れ
- ▶ S. 6 育成すべき資質・能力の3要素の2つ
- ▶ S. 7 道徳教育の場合
- ▶ S. 8 子どものための哲学
- ▶ S. 9 対話とは?
- ▶ S. 10 共に考える
- ▶ S. 11 安全性(physical, emotional, Intellectual **Safety**)
- ▶ S. 12 コミュニティーボールの力
- ▶ S. 13 聞く (聴く、訊く) ことの大切さ
- ▶ S. 14 小集団・探求の共同体での対話と議論を育むには?
- ▶ S. 15 子どもの発言の分析
- ▶ S. 16 子どもの自己評価と相互評価
- ▶ S. 17 子どもの自己評価と相互評価 (続)
- ▶ S. 18 エピソードA
- ▶ S. 19 エピソードB
- ▶ S. 20 エピソードC
- ▶ S. 21 エピソードD

# Philosophy for Children (P4C) の現状

p4c-japanのウェブサイト

<http://p4c-japan.com/>

- ▶ P4Cは現在、ようやくとっていいでしょうか、日本でかなり普及してきました。あくまでも学校教育と関係するものをいくつか紹介。
- ▶ NHKのEテレでの「Q 子どものための哲学」 (NHK for School) 、  
<https://www.nhk.or.jp/sougou/q/>
- ▶ 宮城教育大学のp4c国際フォーラム (2015年～) 。今年は「宮城国際フォーラム」
- ▶ 一般社団法人地域デザインプラットホーム、子どものための哲学対話 on the web、  
<https://kotetsu.site/>
- ▶ お茶の水女子大学附属小学校の「てつがく科」

今なぜP4C？

それではP4Cって何？

どうやるの？

# 教育改革の流れ

- ▶ 2014年（平成26年）12月、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～（答申）」

大学入試センターの試験では、思考力・判断力・表現力などを評価

大学ごとの個別入試では、面接・論文などの多様な方法で主体性・多様性・協働性などを評価（ただ、2020年導入予定だった新しい大学入試制度は延期になった）

アクティブ・ラーニング（主体的で、対話的な、深い学び）

- ▶ 「OECDによる生徒の学習到達度調査」(PISA)への対応。このテストでは、思考のプロセスの習得、概念の理解、生活の中でそれを生かす力を重視。

# 育成すべき資質・能力の3要素の2つ

平成27年8月26日資料1 教育企画特別部会 論点整理（案）

- ▶ 他者に対して自分の考え等を**根拠**とともに明確に説明しながら、**対話や議論**を通じて相手の考えを理解したり考え方を広げたりし、**多様な人々と協働**していくことができる人間であること。
- ▶ 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き**新たな価値を創造**していくとともに**新たな問題の発見・解決**につなげていくことのできる人間であること。
- ▶ （もう一つは主体性の育成）

# 道徳教育の場合

- ▶ 道徳教育の場合の方法は、
- ▶ 協働して、
- ▶ 対話や議論することを通して、
- ▶ 道徳の問題を多面的にとらえて、
- ▶ 自らの道徳的判断力を育成していく
- ▶ 授業を工夫するということ

# 子どものための哲学 (Philosophy for Children=P4C)

- ▶ 輪を作ってなされる対話。コミュニティボールを使った対話・ディスカッションをベースにした活動
- ▶ 共に考える協働の場（探求の共同体）・解答よりもプロセスを重視
- ▶ 知的に安全な場
- ▶ 思考力の育成

# 対話とは？

- ▶ 話し合いだろうか？
- ▶ 会話だろうか？
- ▶ 討論あるいはディベートだろうか？
  
- ▶ 対話はダイアログ dialogue=dia+logos
- ▶ 対話とは真理探究の方法 = ソクラテスの対話術。プラトンの弁証法。
- ▶ 例えば、会話がお互いの感情や思考や情報や理解を交換するものであるのに対し、対話は、共に考えるということ。共同の吟味、探求。
- ▶ 対話とは、**探求の一形態** a form of inquiry (M.リップマン)

# 共に考える

協働して探求するという  
ことを基礎にした学習

## その目標は

1. 更に適切に思考ができること
2. 一層合理的な大人へと成長すること
3. 矛盾を処理することが上手になること
4. 思いやりや共感を育むようになること
5. 自分や他の人を尊重するようになる
6. 道徳的・倫理的態度を育むこと

# 安全性(physical, emotional, Intellectual Safety)

11

- ▶ 共に考える協働の場では、Safetyが確保されていることが、大切。
- ▶ 安心して自分の思いを出し合える環境
- ▶ 相手の思いを受け止められる態度
- ▶ ⇒お互いの存在を認め合う関係
- ▶ 積極的に自分の考えを変えられる→多様性の受容
- ▶ そのためには
- ▶ 子どもたちは **Active Listening** の態度を身に付けなければならない

# コミュニティーボールの力

- ① それを持った人が人のことを気にしない。
- ② 話しやすく、仲良くなれる。
- ③ ボールを持っている人だけが話せるので、みんなが聞いてくれる。
- ④ 話している人に体を向けて話を聞ける。
- ⑤ ボールが好きだから、話しやすくなる。
- ⑥ 余分なおしゃべりが減る。
- ⑦ 落ち着いて話せる。
- ⑧ 話し合いのキャッチボールができる。意味を伝えあえる。

# 聞く（聴く、訊く）ことの大切さ

## Active Listening

- ▶ 対話のスキル
  - どうしてそう思うのかな（理由を尋ねる）
  - へー、そうなんだ。面白いね（発見を共有する）
  - こういうこともあるんじゃない（別の可能性を示唆してあげる）
  - そう考えると、どうなるのかな（推論を促す）
  - 一緒に問いを掛け合うことをしてみる（問いを作る練習をする）
- ▶ これは教師のファシリテーション・スキルというだけでなく、子ども自身がこのスキルを身に着けるようにしていくことが大切

## 小集団・探求の共同体での対話と議論を育むには？

- ▶ ルールとスキルが必要
- ▶ それは論理的に思考すること。例えば、
- ▶ ハッキリと他と区別できるように発言する Clarity/Distinctiveness
- ▶ 首尾一貫した発言をさせる/矛盾に気づかせる Consistency
- ▶ 理由・根拠・証拠・前提を尋ねる Reason, Criteria, Evidence, Assumption
- ▶ 別の選択肢の可能性を示唆する Alternative
- ▶ 新しい発見・違いに注意する Creativeness
- ▶ 推論をさせる Inference
- ▶ 調べ学習をさせる Research

# 子どもの発言の分析

## ▶ 批判的思考

- 自分の発言、他者の発言を吟味して、理由・根拠を示す。

## ▶ 創造的思考

- 新しいものを生み出す思考

## ▶ ケア的思考

- 思考を単に論理的な構造に限定するのではなく、発言する相手に対して配慮しようとする思考。
- 発言する相手の状況や背景に対する思いやりを持った思考。議論を進め、深めようとする思考

- ▶ とにかく、自分の言葉で語る勇気と楽しみを感じるようになり、友だちの発言を聞いて、それに賛成したり、反対したり、更に自分の考えを変えたり、友だちの発言を促したり、まとめてあげたりする。

# 子どもの自己評価と相互評価

- ▶ 評価の結果を子どもたちがシェアできる環境を作る
- ▶ この評価が自尊感情や他者を尊敬する感情と結びつく

## 具体的な評価の例

- ▶ 対話は興味深く、楽しかったですか。（主体的な参加度）

1. 2. 3. 4. 5 理由

例えば、子どもが4に○を付け、その理由として、「友だちのAさんがこういう発言をしたのを聞いて、そういうこともあるのかと興味を持った」と述べたとすれば、このコメントは、自己評価だけでなく、Aさんに対する他者評価になっている。このような評価をAさんに返してあげ、評価を共有する。

- ▶ あなたは友だちの話に耳を傾けることができましたか。（相互行為）

1. 2. 3. 4. 5 理由

- ▶ 私たちは対話に集中していましたか。（相互行為）

1. 2. 3. 4. 5 理由

## 子どもの自己評価と相互評価（続き）

- ▶ あなたは何か新しいことを学びましたか。新しい考えや理解を積み上げることができましたか。（探求のスキル）
  1. 2. 3. 4. 5 理由
- ▶ あなたは自分の考えを表現できましたか。（大きな声で、理由や例をあげて）（探求のスキル）
  1. 2. 3. 4. 5 理由
- ▶ 私たちはテーマを掘り下げたでしょうか。よい議論ができたでしょうか。（推論や議論のスキル）
  1. 2. 3. 4. 5 理由
- ▶ 私たちは、議論に新しい流れを作り出すことができましたか。（推論や議論のスキル）
  1. 2. 3. 4. 5 理由

# エピソードA

- ▶ 我々の仲間Mさんが小学校でP4Cを実践した時の話し
- ▶ 3年生まで友だちからも学校からも全く無視され、存在すらしないように扱われた児童A。彼は、学校を監獄、教室を牢屋と呼んでいた。
- ▶ そんな彼が4年生になってMさんが担任となり、授業でP4Cを体験する。
- ▶ P4Cの規則の一つはボールを持っている子だけが発言でき、他の子はその子の発言をきちんと聞くというもの。
- ▶ 児童Aはこの時初めて、人に話を聞いてもらえるという体験をした。
- ▶ それ以来、彼は担任にP4Cをすることを強く要求。
- ▶ そんな彼の発言を聞き始めた他の生徒は、彼も自分たちと同じではないかと思い始め、彼を無視するのを止め始め、かかわりを持つようになった。
- ▶ 3学期になり、担任が家庭訪問して、Bは担任に対して、最近は皆の様子を見て発言できるようになったと話した。これを聞いていた母親は自分の子どもの成長に大変感動した。

## エピソードB

- ▶ Mさんが6年の担任となった時、クラスの成績のよい児童BはP4Cの授業を楽しんでおり、発言や振り返りでもその子の賢さがよく見て取れた。
- ▶ その子は、奈良女子大学附属中学校に進学することになった。
- ▶ そして、その子は、担任のMさんに対して、P4Cの授業を受けられたことを感謝した。
- ▶ 受験勉強に必要な知識やスキルは塾でも学べ、それなりの自信はあったものの、奈良女の附属の入学試験では、知識よりも、なぜそう考えるのかということで、思考力や判断力を試された。
- ▶ このような思考力や判断力は塾では教えてくれなかった。
- ▶ 学校でP4Cをしていたからこそ、身に付いたものであった。

# エピソードC

- ▶ Kさんの例
- ▶ 特別支援を必要とする子、あるいは不登校気味だった子
- ▶ P4Cの授業にじっとして参加し続ける
- ▶ その後、帰宅したときに母親に「今日は哲学の授業をしたよ」と学校生活の話をし始める
- ▶ 学校不信に陥っていた母親は、自分の子どもの変容に対して、非常に感謝

# エピソードD

- ▶ 橋本市立A小学校のN先生の授業
- ▶ Facebook : P4C in schools KANSAI-JAPANへの投稿を参考
- ▶ 学級崩壊を引き起こす原因となっていた子の変容
- ▶ 問いを作ることに対するActiveな態度と批判的思考力の例
- ▶ 自分の意見を変えることに不安を感じていない